



公益財団法人 山階鳥類研究所

アホウドリの長寿記録が更新され、42年7か月となりました

- ・アホウドリの長寿（最長生存期間確認）記録が大幅に更新され、42年7か月となりました。
- ・アホウドリは一時絶滅したと考えられたほど数を減らしましたが、1951年に約10羽が再発見されてから今日まで保全活動が続けられており、今回の長寿記録の更新は長年の活動の成果といえます。
- ・このような記録は、日本で100年続いている鳥類標識調査のデータが蓄積されていることによります。山階鳥研では、環境省から委託事業として鳥類標識調査を実施しており、全国の調査員から寄せられるデータを整理・管理し、これを公開するとともに、研究を行っています。

アホウドリは、その生活のほとんどを海の上で過ごし、繁殖期になると絶海の孤島に飛来して、集団で子育てを行います。1949年には絶滅した可能性が高いとまで言われましたが、1951年に約10羽が再発見されてから、保全活動が行われています。

保全活動に欠かせない手法の一つに鳥類標識調査（後述）があります。伊豆諸島鳥島（以下、鳥島）での継続した鳥類標識調査は、1979年に東邦大学（当時）の長谷川博氏がすべてのひなに足環をつけたことから始まりました。現在は山階鳥研がこれらの活動や調査を引き継ぎ、毎年繁殖期のシーズンに数回、伊豆諸島鳥島に赴き、ひなに足環をつけ、繁殖状況や個体数の変動などを記録しています。そのため、1979年以降の鳥島生まれのアホウドリ（2023年末時点で11,550羽※）にはすべて足環がついており、生まれた年がわかっています。

山階鳥類研究所では、2024年11月13日から12月2日まで鳥島に滞在し、アホウドリの卵数カウント調査を行いました。期間中の11月16日に、繁殖地の1つである燕崎で抱卵していた個体の足環を確認したところ、アホウドリの長寿記録が更新されたことが判明しました。

本個体についていた足環の番号を照合すると、2006年に再捕獲されたときに、足環を交換していました。交換前の番号を調べると、1982年3月24日に



長寿記録を更新したアホウドリ（撮影：今野怜）

ひなの状態で足環をつけられた個体であることがわかりました。このことから、この個体は42年7か月生存しているといえ、これまでのアホウドリの長寿記録であった37年8か月※から、4年11か月の記録更新となりました。

巣立ったアホウドリが繁殖に参加できるようになるまでには5年程度を要し、繁殖が始まっても年に1個しか卵を産みません。この個体が標識された1982年は、鳥島の中に繁殖地はまだ燕崎の1つしかなく（現在は3か所）、生まれたひなもたったの21羽でした。2024年3月現在、鳥島全体で1,173羽のひなが誕生するまでになっています。今回の個体が無事に成長し、繁殖を行い、その後も長寿記録を更新できるほど生存できているということは、継続した保全活動がいかに大切かを教えてくれています。

また、これまではほかの種も含めると、日本における野鳥の最長生存期間確認の記録は長年、1975年5月に足環をつけられ、2012年1月に再度確認されたオオミズナギドリで36年8か月であり、今回これらを大幅に上まわる記録となりました。

鳥に足環をつけて行う調査は「鳥類標識調査」とよばれます。各個体につけられた足環には個別の番号があてられており、観察や回収によってこの番号を確認します。山階鳥研では、鳥類標識調査を環境省の委託事業として実施しており、全国から寄せられる足環の番号の報告やそのときの状況などのデータを整理・管理し、公開しています。日本の鳥類標識調査は2024年で100周年をむかえました。今回のアホウドリの長寿記録の更新も、このような長期のデータの蓄積や整備があって初めてわかることです。

鳥類標識調査は全世界で行われています。野外における世界最高齢として知られるメスのコアホウドリは74歳以上とされており、現在も毎年、繁殖地であるハワイのミッドウェー島で確認されています。この個体は「ウィズダム」と名づけられ、毎年、世界中の関係者が彼女の動向に注目しています。

野生の鳥は通常、死ぬまで繁殖するので、初繁殖の年齢や、1回の繁殖で育てる子の数とともに寿命を知ることは、その種や個体群の生活史や保全管理において重要な情報になります。今回のような長寿記録の更新は、その生物への理解をうながすだけでなく、野生動物の保全管理や人間活動が環境に与える影響の見直しにもつながります。

※本記録は2023年12月末時点。これらのデータの使用には山階鳥類研究所の許諾（許可番号：山階保全第6-78号）を得ています。

この件についてのお問い合わせ先：

公益財団法人 山階鳥類研究所

千葉県我孫子市高野山115

電話：04-7182-1101

担当：広報 山岡容子（Eメール：pressrelease@yamashina.or.jp）

・写真・図版のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。